

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170600510		
法人名	医療法人社団睦会		
事業所名	グループホーム昭和館まどか		
所在地	岐阜県羽島郡笠松町円城寺947-1		
自己評価作成日	平成24年6月18日	評価結果市町村受理日	平成24年8月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170600510&amp;SCD=320&amp;PCD=21">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170600510&amp;SCD=320&amp;PCD=21</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成24年7月4日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が医療法人であり、グループホーム周辺には、複数の介護事業所が、運営されているため、利用者やご家族の安心と満足のある暮らしを支えています。ホームは、広い空間を持つ木造平屋3ユニットで構成せれており、庭は、季節の花や木に囲まれています。理念である【思いやりがかよう同居人生活】を実現するために、家庭的で楽しい雰囲気、人としての尊厳を守り、適切かつ安全な医療とケアを提供し、ご家族、利用者の希望によっては、看取りまで行います。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体は、地域の病院であり、複数の介護事業を運営している。利用者は、ホーム利用前からのかかりつけ病院であり、近隣には福祉施設が多く、日頃から病院や施設を利用し、慣れ親しんだ関係を継続している。医療法人であり、緊急時即時対応ができ、週1回の往診があることで、利用者・家族が安心して生活を送ることができる。「同居人の生活」を継続するため、重度の利用者も孤独にしない工夫をし、共用空間の和室では、利用者が日々集い、思いやりをかよい合せ、楽しい時間を過ごしている。福祉施設や病院の帰りに地域住民がホームに立ち寄りなど、地域住民との交流にも積極的に取り組んでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念は【思いやりがかよう同居人生活】として全員で取り組んでいる。地域の一員としてホームにはいつでも来ていただけるようにしている。	「思いやりがかよう同居人生活」を理念に掲げ、地域の住民と日常的な関係が継続できる体制を築き、利用者が安心して穏やかに暮らしている。毎月の勉強会や申し送りなどで、理念や倫理について管理者、職員は確認し、全職員が共有し実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のふれあいサロンに参加したり、近くの喫茶店に行ったり、散歩しているときに地域の方とあいさつを交わしたりすることで、ふれあいを持つようにしている。また地域の方にホームの行事に参加していただき交流を持つようにしている。	法人として自治会に加入し、地域の行事などの情報を得ている。住民参加の「ふれあいサロン」などの行事には積極的に参加している。夏祭などホームの行事は地元の住民を招待するなど、日々地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	最近では、認知症が地域に理解せれるようになり、地域の方のほうがよく知って見えたりするがその中で、私たち専門性をいかし地域の方の話を聞いたり、アドバイスしたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価後に、ご家族にアンケートを出しそれをもとに運営推進会議で話し合いを持っている。	運営推進会議は、年間を通じ概ね6回開催し、民生委員、行政、家族が参加している。ホームの現状、取り組みなどを報告し、意見交換を行っている。民生委員、行政から「自治会代表者の参加を要請する」提案があり、ホームとしても努力することを確認している。	ホームとして、自治会代表者への参加依頼を重ねている。さらに、地元の各種団体等に対しても参加を要請するなどの取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町職員には毎回運営推進会議に参加していただき、どんなことでも話すことが出る。又入居時にも情報が頂けたり、相談もできる。	困難事例の相談、法改正の指導を受けている。また、ホームの現状などを報告し、協力関係ができ、多くの情報を得るなど日頃から連携が取れている。行政主催の研修会、連絡会議には管理者、職員が出席している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で取り組んでいる。権利擁護委員会も2か月の1回開催されている。玄関の力ギは、施錠しなくてもよい構造になっている。	「身体拘束ゼロ」のマニュアルを基に職員研修、法人全体の権利擁護委員会を定期的開催している。利用者の人権を重視している。玄関の施錠はしないで、利用者の行動を阻害することが無いようホーム全体で工夫している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の研修会に参加し、職員全員に周知し虐待についてのアンケートを取りミーティングで話し合う。利用者に対しての言葉づかいや態度が虐待になっていないか、職員同士で注意しあうようにしている。		

岐阜県 グループホーム昭和館まどか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、理解しているため、必要と感じた時には、家族に話すようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、十分な説明を行い理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。入居時に、書面で説明している。	毎月、利用者の様子を「アセスメント方式」を利用して、家族宛に報告し、家族の意見を記入し返送するシステムを取っている。また、面会時に、できる限り、家族と利用者の意見交換を行っている。家族から、身体介助の必要な利用者も孤独にならない支援の要望があり、改善に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員の意見を聞くようにし、行事などは職員が計画を立て実行できるようにしている。月1回のミーティングでも意見が出せるようにしている。法人代表も理解がある。	日頃の会話や、ミーティング、申し送りなど、その都度、気づき、不安など相談し、運営に反映している。意見を出しやすい環境ができている。家族の要望などに対しても、職員の体験などの意見交換を行い、ケアに繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望をできるだけ受け入れ勤務表に反映している。職員評価は、年3回管理者が行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修情報は、回覧で回している。希望があれば参加できるようにしている。又管理者より必要な研修は、支持をすることもある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、岐阜県グループホーム協議会の理事であり同業者との交流を持っている。職員は研修などで交流を持つようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期時は、できるだけ多く会話するようにしている。不安や困っていることは、家族と相談しながら対応する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分時間をかけるようにしている。不安なことはすぐに対処するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内にあるサービスの事業所の意見を聞き、適切なサービスを支援する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族こだわり、困惑などを聞き、日々の生活の中から、信頼関係が得られるようにして、本人のできることが、日課になり、他者との関係をより良いものにしていく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には、毎月暮らしの情報を郵送している。気持ち、行動、状態を知ってもらいことで、家族と共有する。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と連絡を密に取り、馴染みの人としての関係が途切れないように支援に努める。入居者同士が知り合いという方が多くなり、入居者の家族でなくても近所であることで話しかけてもらえる。	併設する母体病院の患者に知り合いも多く、通院の帰りに来訪したり、デイサービス利用者との交流することで、馴染みの関係が途切れない支援をしている。ホームの周辺には、福祉関係の複合施設が多く、地域の住民が多く集まる場所で、馴染みの人と出会うように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席の配慮をしたり、会話を促したり、日常生活の中から関わりを持つようにしている。よく動かれる方のそばで入居者同士が話をするようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に入院されても、状態の把握に努めご家族と会話とのつながりが途切れないようにしている。又いつでも相談に来て頂けるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から情報を得たり、本人の希望、意向を把握し困難な場合は、職員全員で相談し希望、意向に沿えるよう努力する。	「同居人」が理念で有り、利用者を孤独にしない、ゆっくり、寄り添う支援を行っており、利用者の思いや意向は、職員が気づきとして得ることが多い。趣味を見出し、一人ひとりの希望や思いを把握し、喜びや希望に繋ぎ職員全体で共有している。困難な場合は、家族から情報を得ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報を基に、生活歴、生活環境これまでのサービス利用の把握して、利用者馴染みの関係を築きながら、日々の暮らしに役立てる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康管理票の利用や、カルテの記事で把握ができるようにして、個々に合わせた日課表を作成している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月発行している生活状況より家族利用者の希望を聞き、カンファレンスを行いケアプランの見直しを行っている。	家族へ毎月送付する利用者の生活状況を基に、家族の意見をまとめ、職員の意見やケア記録を参考に、専門職の意見を聞き、介護計画を作成している。家族と面談し、さらに細分化した計画をたて、実践につなげている。現状に即して柔軟に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケア実践は個別の記録に記入し情報を共有する。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母体が医療法人で他のサービス事業所がありいつでも相談でき、利用することが出来る。そのため家族より相談あってもすぐに対処できる。		

岐阜県 グループホーム昭和館まどか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小、中学生のボランティア、研修生を受け入れ民生委員の方より地域の情報をいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が病院なので適切な医療を受けている。	契約時に家族、利用者にホームの方針を説明している。かかりつけ医を継続する場合は、原則として家族が同行し、母体病院を選択した場合は、ホーム職員が対応している。ほぼ全員が母体病院を選択しているが、歯科や眼科等は、かかりつけ医の継続が多い。緊急時は、臨機応変に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携加算にて、日常の健康管理はできている。又相談もいつでもできる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、サマリーを書くことで情報を伝え連携を密にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時事前確認書を基に、重度化、終末期と医師が判断された場合家族利用者が、最期をグループホームでと願う方に身体的、精神的苦痛の緩和し日々の暮らしを営むよう援助する。	契約時に重度化や終末期におけるホームの方針を説明し、文書による確認を取っている。介護で支援できるまではホームで支援し、医療が必要となった場合には他の施設に移るなど、早い段階で、利用者、家族と話し合っている。さらに希望に応じ、最期まで暮らせるように支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応手当の話し合いをし緊急時のマニュアル作成をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	関連施設が近くにあり、消防、警察、近所の方との関わりを密にして働きかけをしたり、利用者と共に避難訓練をしている。	法人全体で、年2回の災害訓練を実施し、職員は災害時の器具の利用方法などを実際に体験している。誘導、集合場所等の訓練を行っている。備蓄を整え、日頃の点検もしている。今後は、地震訓練を計画している。	早い時期に、地震訓練を実施するとともに、地域住民や家族にも参加を呼びかけることを期待している。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳、人格についての勉強会をしたり、職員間で意識し合うよう話し合いを持ったり、自尊心を気づけつけないよう関わっている。	日常の支援の中で、人生の先輩として、人格を尊重するための学習を行っている。特に会話においては自尊心を傷つけたり、プライバシーを損ねないよう、職員間での気づきを互いに話し合い、対応している。優しい言葉で、ゆとりを持った対応がホームの方針であり、実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、会話時、行動などにて判断し、思いや行動をくみ取り、自己決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の意見を、確認しながら行っている。又、意志の確認ができない方は、職員がその人に合わせた過ごし方を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節の応じて快適な身なりの支援をしている 又希望に応じて選ぶ場合もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立を聞いたり、食べたいものがあれば取り入れたりしている。又準備を手伝ったり、後片付けなど出来ることをしていただいている。	利用者は、テーブルふき、後片付けなど、自分のできることを職員と共にやり、職員は「ありがとう」の言葉で労っている。慌てず、焦らず、見守ることを大切にしている。職員も同じ食事を介助しながら食べることで、次のメニューに会話で弾み、誕生会等の食事の希望も聞き取っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態、量はその人に合ったものにし、栄養バランスは、法人内の栄養士に確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その人に合った口腔ケアをしている。		

岐阜県 グループホーム昭和館まどか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者は、できる限りトイレでの排泄に心掛けている。トイレ誘導はその人に合った排泄パターンで行っている。	排泄記録をもとに、利用者の行動により判断し、トイレへ誘導している。排泄の際には羞恥心のないようにケアをしている。トイレで気持ちよく排泄ができるようになり、自信を持ってもらうことで、自立を高めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に合わせた便秘予防をしている。水分量、根野菜を多くしたり、内服で調整したりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週3回で、時間は職員に合わせているが、一人一人の入浴時間は利用者に合わせている。例えば、ゆっくり入りたい人には時間の配分を考えている。	入浴は週3回、午後の時間帯に行っており、その都度、利用者の状態に合わせて、複数の職員体制、個浴、シャワー浴など、個々にそった支援をしている。一人ひとりが、ゆったり時間を掛けて入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望に添えるようにしている。眠剤を使用しないで、お茶、牛乳などを飲んでいたり、会話したり、職員と過ごし休んでもらう。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理者、看護師が把握しており、異常があれば医師に報告している。誤薬マニュアルに沿って服薬介助している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の力に応じて手伝いなどしていただくようにしている。生活歴を参考に出来ることを支援するようにしている。コーヒー、嗜好品などを提供したりラジオ体操、あそびりなどで、気分転換を図るようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に出かけることはできるが、普段いけないところには、家族の協力ででかけることもある。又職員の付き添いで、喫茶店、お墓に行くこともある。	利用者の健康状態、天候など考慮し、散歩や日光浴、外気浴など個々にそった支援をしている。ホームの近隣を職員と共に散歩したり、希望により喫茶店などへ出かけている。遠方の外出の希望には、家族の協力を得て出かけている。	



岐阜県 グループホーム昭和館まどか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談して、管理できる方は本人が管理してできない方は、職員が管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々に合わせて手紙を出したり、代筆したり、一緒に郵便局に出しに行く援助をしている。電話は、希望があればいつでもできるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花、行事の写真飾りなどで季節感を取り入れ、居心地良く過ごせるようにしている。	空調環境を整備し、天井が高く、共用の空間は広々としている。季節の花や、職員と共に作った季節の行事の作品を飾っている。立位が困難な利用者が横になれ、他の利用者と共に過ごせるよう和室を設置している。利用者が、のんびり穏やかに、心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間に畳のスペース、廊下に椅子を置きひとりになる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に相談しながら、馴染みのものを持ってきてもらう。	各居室にはクローゼットが設置してあり、居室を広く利用できる。利用者の希望や安全面に配慮し、和室と洋室が選択でき、介護用のベッドが設置してある。全体に風通しの良い設計である。使い慣れた鏡、写真など、家族と好みの物を思いのままに飾り、居心地良く生活できるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境の整備をし、個々にあった支援をし、居室には目印があり分かりやすくしている。		